

平成24年度 歴史移動展 よみがえるアイヌの伝成品

～虹別コタンと塘路コタンの世界～

昨年に引き続き、標茶のアイヌ文化を紹介する移動展示を行います。

雄大な西別岳と摩周湖の澄んだ伏流水が注ぐ西別川に抱かれた「虹別コタン」と広大な釧路湿原と塘路湖に豊かな資源を背景に栄えた「塘路コタン」の世界を、「古写真」と「アイヌ民具」にて紹介します。



展示されるさまざまなアイヌ民具

標茶の偉大な先人の記録をこの機会に、ぜひ鑑賞ください。
(伝成品とは、古くから一つの地域に伝わってきた物のことです。)

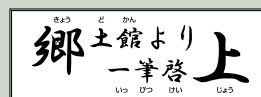
■日程と会場 (※初日は午後からです)

日 程	会 場
1月11日(金)～21日(月)	開発センター
22日(火)～28日(月)	磯分内公民館
29日(火)～2月4日(月)	虹別公民館
2月5日(火)～12日(火)	中御卒別小学校
12日(火)～19日(火)	沼幌小学校
19日(火)～26日(火)	久著呂中央小中学校
26日(火)～3月4日(月)	標茶町図書館

(3月以降については『広報しべちゃ』3月号にて紹介します)

大川のほとり

—郷土館だより(第56号)—
☎487-2332
開館時間
午前9時30分～午後4時30分



今年の年末年始は土日祝日の関係で1月7日までお休みの公共施設がありますが、郷土館は1月6日より開館します。

皆様のご来館を、お待ちしております。
(坪)

「2012年の調査を振り返る！郷土館の調査最前線」

2012年も郷土館はいろいろありました。調査結果をダイジェストでお伝えし、2013年の抱負を語ってみたいと思います。

1. 主に行った調査

5月「キタサンシヨウウオ調査」

塘路で行った調査では、春に確認された卵のう(卵がたくさん入った袋)は、31双でした。2011年は94双でしたので、数の少なさにびっくりしましたが、2012年はちょうど産卵時期に豪雨があり、卵のうが流されてしまった可能性があります(2012年の調査地の水深は、2011年の倍でした)。

現在の塘路の産卵地は、人の手による大きな変化もなく、毎年安定して産卵されているので、このまま様子を見守っていきたいと思います。

6月「北海道フラワースン2012」

「北海道フラワースン」は、5年に1度開催される全道一斉の開花調査です。郷土館では毎回「塘路やそう会」と一緒に参加していますが、今回は地域の自然をより多くの人に知ってもらうため、一般の参加者も募り、2チーム編成にしました。

また、今までは「釧路湿原」や「軍馬山」を中心に調査をしてきましたが、今回は新たに「京都大学研究林」、「西別岳」といった山の調査も強化しました。京都大学研究林の職員の方や標茶高校の先生や生徒さんと一緒に調査しました。

結果は標茶の市街地で93種、京都大学研究林(山林部分)で78種、西別岳で51種となりました。残念ながら釧路湿原の調査は雨で中止となり、記録は取れませんでした。

今回の調査で、京都大学研究林や西別岳の花のリストが記録され、また京都大学研究林内では、町の天然記念物ベニバナヤマシヤクヤクの新たな分布が確認されています。

7、8月「トンボ調査」

塘路湖で町の天然記念物ゴトウアカメイトトンボの撮影に成功！調査開始5年目での快挙でした。7月の半ばまで気温が低く、クロイトトンボなど他のトンボの数が増えてくる時期が遅れたため、見つけやすかったのだ



「北海道フラワースン2012」の様子

『標茶町郷土館報告』 第24号が 発刊されました。



↑A4版83頁です

本町の歴史や自然に関する報告と、郷土館の活動年報告を収録した『標茶町郷土館報告』第24号を発刊しました。

今号では、釧路集治監や本町での空港建設案、町内のアイヌコタンなどの歴史産業関係報告のほか、アオサギやキタサンショウオ、町内に生息する昆虫類、絶滅しつつある昆虫の状況報告などが掲載されています。希望者には配布していますので興味のある方は郷土館まで連絡してください。

郷土館ミニだより

これ、な〜んだ?

その
5



冬は大きなワシの仲間を観察するのにいい季節です。でもこのワシ、尾は白くないし、くちばしも変な色。一体これは……?

実はこれ、オジロワシの子供なのです。オジロワシは巣立ってからおよそ6年かけて少しずつ羽根が生え変わ

り、くちばしも黄色になっていきます。それまでははっきりしない模様なので、いったいなんのワシなのか悩まされることがしばしばあります。



オジロワシ（尾の先にまだ子供の羽が残っています）

調査はいつも地域の方の協力を支えられて行っています。地域の方から情報を頂き、時に山や湖の調査に同行して頂いて、思わぬ新発見や記録が出来ていく様子は、感慨深いものがあります。今年も皆さんと一緒に、この町の自然の情報を集めて記録し、後世に残していけるように尽力していきたいと思えます。

3. 2013年に向けて

気候や天候で生き物の確認は当たりはずれがあります。春先の雨の多さでキタサンショウオの卵のうが流されたり、初夏の気温の低さに花の開花が遅れ、全道一斉調査の日に想定していた花を確認できなかったり、雨で調査が中止になったり、不連続だったようにも思います。しかし、その低温のおかげか、ゴトウアカメイトトンボが確認されたのは特筆すべきでしょう。

また地域の方や、標茶高校の先生や生徒、京都大学研究林の職員の方、カヌー業者の方など、今までになくさまざまな方に協力して頂きました。

2. 2012年の調査を振り返る

7月10日に西別岳に登り、国の天然記念物カラフトリシジミを探したところ、2時間で1個体ずつ3回確認しました。昨年の7月11日にはほぼ同じ条件で10個体ほど確認しています。やはり今年は7月の半ばまで気温が低く、植物も昆虫も全体的に遅れているようでした。

番外「カラフトリシジミ調査」

7月10日に西別岳に登り、国の天然記念物カラフトリシジミを探したところ、2時間で1個体ずつ3回確認しました。昨年の7月11日にはほぼ同じ条件で10個体ほど確認しています。やはり今年は7月の半ばまで気温が低く、植物も昆虫も全体的に遅れているようでした。



カラフトリシジミ調査

12月「アオサギ調査」

12月5〜13日にアオサギのコロニーで今年作られた巣の数と位置を調査しました。詳しい結果については集計を待たねばなりません。以前、巣が作られていた林の西側より中心部へ巣が集中している傾向があり、また林の南側に新しい巣が作られるようになっていきます。

なお2010年までの調査結果は郷土館報告24号にて報告しました。郷土館にあるアオサギのコロニー（集団巣）にある巣の数は、現在のところ毎年200個前後で安定しています。

しょう。9日間の調査中、4日間確認できませんでした。夏にはカヌー業者さんにもゴトウアカメイトトンボの目撃情報の協力をお願いしました。1年で1番お忙しい時期だというのに、皆さんの好意的なお返事に、改めて地域の方の自然に対する優しい気持ちに触れた思いでした。